

平成 27 年 5 月 26 日

各 位

会 社 名 株式会社カイオム・バイオサイエンス  
代表者名 代表取締役社長執行役員 CEO 藤原 正明  
(コード：4583 東証マザーズ)  
問合せ先 取締役執行役員 CFO 清田 圭一  
(TEL. 03-6383-3746)

### 子会社の癌治療用抗体 LIV-1205 のオプションライセンス契約締結についてのお知らせ

当社の子会社である株式会社リブテック（本社、神奈川県川崎市 代表取締役 中村 康司、以下、リブテックといいます）は、本日開催のリブテック取締役会において、同社が自社創製したがん治療用抗体 LIV-1205（以下、本抗体といいます）に関して、ADC Therapeutics 社（本社、イパリンジェス、スイス、以下、ADCT といいます）と Antibody Drug Conjugate（以下、ADC といいます）領域での全世界における独占的な開発・販売権に関するオプションライセンス契約を締結することを決議し、本日付で契約を締結しましたので、お知らせいたします。

本オプションライセンス契約は、リブテックが ADCT に対して、本抗体の評価を目的として、特許の実施を許諾するものです。リブテックは、本オプションライセンス契約の締結時に ADCT 社より契約一時金を受け取るとともに、ADCT 社がオプション権を行使しライセンス契約を締結した場合には、ライセンス契約一時金を受け取り、さらに、開発の進捗に応じたマイルストーンペイメントを含めて総額で約 90 億円を受け取ります。また、製品上市後には製品の売上高に応じたロイヤルティも受け取ります。なお、経済条件の詳細は守秘義務契約に基づき非開示といたします。

なお、本契約締結後も本抗体の ADC 領域以外での権利はリブテックが保持し、開発及び導出活動を継続いたします。

本契約締結により、平成 27 年 12 月期において契約一時金の一部を売上高として計上いたしますが、業績に与える影響は軽微であります。なお、上記に記載したライセンス契約一時金、マイルストーンペイメント及びロイヤルティについては、受領することが確定次第、業績に与える影響をお知らせいたします。

#### < LIV-1205 について >

LIV-1205 は、肝臓がんを中心とする固形がんの細胞表面に発現している抗原（標的分子）「Dlk-1 (Delta-like 1 homolog)」に結合し、がんの増殖活性を阻害するヒト化モノクローナル抗体です。Dlk-1 は、幹細胞や前駆細胞といった未熟な細胞の増殖、分化を制御すると考えられており、リブテックの研究開発チームによるがん幹細胞研究の成果として、肝臓がんの細胞表面に発現し、その増殖に関与していることが発見された、新しいがん治療の標的になりうる可能性がある分子です。

#### < 株式会社リブテックについて >

リブテックは、神奈川県科学技術アカデミー（KAST）・幹細胞制御プロジェクト（平成 11 年～16 年）における「幹細胞生物学」における研究成果を基に設立されたバイオベンチャーで、幹細胞とがん発生に着目し、自社ラボにおいて標的分子候補の探索から、抗体作製、実験動物を用いた薬効評価試験を通して、臨床開発候補抗体の創製まで行える体制を有しており、今回の契約を含めると 3 件の導出実績となります。また、リブテックは、当社の 100%子会社であり、平成 27 年 7 月 1 日付で親会社である当社と合併いたしますが、平成 25 年 12 月 25 日にリブテックをグループ子会社化して以来、事業開発活動を当社と共同して推進してまいりました。今後も一体となって画期的な抗体医薬品の開発に取り組んで

まいります。

<ADC Therapeutics 社について>

ADC Therapeutics 社は、オーベンセラピューティック社からの出資により平成 24 年に設立され、癌細胞に特異的に結合するモノクローナル抗体と、非常に活性の高いピロロベンゾジアゼピン(PBD)二量体を結合させる独自の抗体薬物複合体(ADCs)技術を開発しています。この技術は、ADCT が提携しているスピロジェン社(現在は、世界的大手の製薬企業であるアストラゼネカ社の子会社であるメドイミュン社)により開発されたものです。

抗体ががん細胞表面の特異的受容体(または抗原)に結合することにより、ADC が細胞内に運ばれ、PBD 二量体が遊離し癌細胞の DNA の一部に結合することで細胞分裂を阻止し癌細胞を破壊します。一般に使われるメイタンシノイドやオーリスタチンのような ADC 技術と比較し PBD は全く異なる作用機序を有し、DNA の構造を変化させないため、耐性を示しにくい利点があるとともに、化学療法に伴って観察されるような正常組織への副作用を最小限にとどめます。

ADC 技術は血液がんや固形がんへの有望な治療法となる可能性を持ち、次世代のがん治療法として製薬業界から注目されています。ADC Therapeutics 社は、今後 3 年内にいくつかのパイプラインを臨床段階に進める予定です。

なお、ADC Therapeutics 社に関する詳細な情報は、ウェブサイト (<http://www.adctherapeutics.com/>) をご覧下さい。

以 上